

リユース、リサイクル、アップサイクル

SDGsラジオを讀んでみよう！

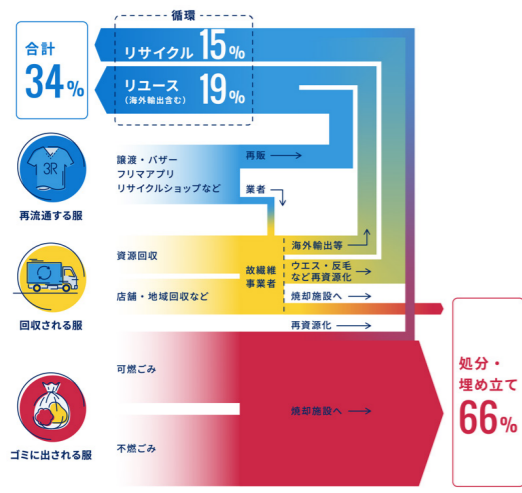
みなさん、いらなくなった服はリユースしたりリサイクルしたりできることを知っていますか？「服の廃棄を減らすこと」を目的として、服に使われている生地などの資源を有効活用する、さまざまな取り組みが増えてきています。

アパレルショップのアーバンリサーチでは、いろいろな理由でお客様に提供できなくなった服などを、廃棄するのではなく、違う素材が混じっていて分別が難しいものでも「色」で分けてリサイクルし、カバンやスマホケースといった新たな商品へと生まれ変わらせて、販売しています。

いらなくなった服はきちんと循環させ、生まれ変わった商品を身につける。

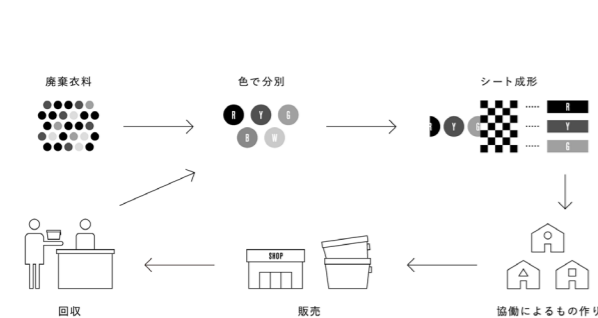
そんな環境にやさしいスタイルも、時代にあったステキなファッションなのではないでしょうか。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：環境省 SUSTAINABLE FASHION これからのファッションを持続可能に

「服の廃棄を減らす方法」として真っ先に思いつくのは、「他の人に着てもらって『リユース』ではないでしょうか？でもそれは、「着てくれる人」がいてはじめて可能になります。着てくれる人が誰もいなければできません。次に「リサイクル」という方法もあります。しかし、リサイクルするためにはまた新たなエネルギーが必要ですし、リサイクルしてつくられるものはマットレスの詰め物や掃除用のクロスなどで、新しい服に生まれ変わることはほとんどありません。つまり「リサイクル」はコストに見合ったものができにくく、「努力の割に実りが少ない」という難点があります。そして、リユースもリサイクルもされなかった服は「廃棄処分」となり、日本では、着なくなった服の約2/3が廃棄されているのが現状です。



画像参照：異業種協働による廃棄衣料のアップサイクル commpost

「アーバンリサーチ」では「アップサイクル」という、リユースでもリサイクルでもない新たな手法を導入しています。アップサイクルとは、廃棄予定であったものに手を加え、素材や形などの特徴を生かしつつ、より良い商品に生まれ変わらせる手法のことで、「クリエイティブ・リユース(創造的再利用)」とも呼ばれます。「つくり変える」という点では「リサイクル」と似ていますが、リサイクルとの決定的な違いは、より良いものになっているかどうか、すなわち品質や価値が「アップ」したかどうかの点にあります。同社はアップサイクルの一端として2018年11月に「compost(コンポスト)」という独自のブランドを立ち上げ、廃棄衣料からバッグやスマホケースなどの新たな商品をつくり出しています。

キーワード

リユース

日本語では「再使用」という意味で、使わなくなったものを廃棄せずに「何度でも使うこと」、または「別の製品の一部分として使うこと」を指します。

リサイクル

使い終わったものを資源として再び利用することを指す言葉です。例えば、ペットボトルから服やバッグをつくるのも「リサイクル」のひとつです。

廃棄処分

衣料は主に「焼却」「埋め立て」で廃棄処分されています。「焼却」では大量に二酸化炭素を排出し、また、「埋め立て」では土壌汚染の原因となるなど、環境保全の観点からさまざまな課題を抱えています。

対象ゴール



みなさんにできること！

服を処分する前に、アップサイクルできるものはないか、考えてみましょう。

おさらい

- 日本では現在、服の約2/3が廃棄処分されている。
- 服のリサイクルは、あまり有用ではない。
- 「アップサイクル」とは廃棄処分する予定だったものを、別のより良い商品に生まれ変わらせること。

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

